



# JCLIFE

2022年  
8月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F  
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>



## 7月例会

7月例会は「過去から学べ」  
「原点回帰」をテーマに3分間スピーチを開催いたしました。3分間スピーチはJCIの3信条である「修練」の1つとしてあげられるもので、近年は新型コロナウイルスの影響でオンライン開催が多くなり修練を積む場が失われていきました。そこで改めてJCI 3信条を感じていただき、特に近年入会者

の事をよく知っていただくためこのような場を設けさせていただきました。  
例会は3つのテーマでJCI歴の短いメンバーにできるだけ当たりやすい方法で抽選を行い、スピーチをしていただき、それに対する講師者もランダムに抽選され、いつもと違う緊張感の中で行われました。また委員会ごと



スピーチに対する採点もできるように設えにして競っていただきました。その結果最高得点者は65周年実行特別委員会の水野春樹君と青少年育成委員会の岡村虹二君に決定しました。お二人とも満点の素晴らしいスピーチでした。おめでとうございます。  
今年度も後半に突入しました、総務広報委員会はこれからも皆様のJCI活動がより円滑に進めるよう尽力してまいります。



## 新入会員 ガイダンス

7月21日、尾道商工会議所に  
て本年度入会候補者を対象とした  
新入会員ガイダンスを開催し  
ました。

今回のガイダンスは今岡理事長の挨拶から始まり、新入候補者の自己紹介の後に青年会議所という組織の全体像について映像を交えながらパワーポイントで説明を行い、続いて加藤副実行委員長、村上委員長、平岡委員長からこれから行われる事業について説明があり、入会候補者も興味をもって聞いていました。



各種説明の後、質疑応答の時間となり、質問者は緊張した面持ちながらもこれからのJCI活動について疑問に思ったことをしっかりと伝えてくれました。

今回はコロナ禍ということもあり懇親会はありませんでしたが、ガイダンス終了後には活発な名刺交換や交流がみられガイダンス時よりもリラックスした時間を過ごしていました。  
これからの尾道を担うメンバーが誕生するように一丸となって頑張りましょう。



(記事：福島侑)

(記事：会員拡大委員会 石岡由光)

# 白球 中司 昌克

# 3アウトとれず

# 悲劇 中司野球部

予選突破を目指し第二試合は呉青年会議所、第二試合は竹原青年会議所と対戦しましたが、今岡理事長の粘投やメンバーの奮闘むなしく二連敗にて予選敗退となりました。

当日は多くのメンバーに選手として参加をいただき、またたくさんの方に応援に来ていただいたにも関わらず不甲斐ない結果となってしまいました。力不足を痛感した我々は、来年から監督、キャプテンという役割を若いメンバーに託し、からチームを作り直そうと決まっています。来年こそは中国地区大会を目指し頑張りまいるので、引き続き野球部へ応援をいただきますようお願い申し上げます。ご参加をいただきました皆様、本当にありがとうございました。



7月9日(土)三井金属 鉱業竹原グラウンドにてプロック野球大会が開催されました。

今年は、熱中症対策のため5失点するが3アウトでチェンジというルールで進められましたが、守備の手痛いミスが響き3アウトを取れずにチェンジ、攻撃では熱盛に採用間違いなしの相手の好守に阻まれ、残念ながら第1ラウンド敗退となりました。

雨の影響で練習不足というところもありますが、来年度に向けてのチームの再編成が急務となりそうです。

来年からは、  
(記事：大池博)



試合結果	
【第一試合】	
呉	55 10
尾道	12 3
【第二試合】	
竹原	55 10
尾道	20 2

# グッドルーザー精神を胸に

# 開幕 JCCカップ



7月18日(月)広島県立中央森林公園多目的グラウンドにて第8回JCCカップU11少年少女サッカー全国大会が開幕されました。

天候が心配されましたが、無事開催することができ、県下12のサッカーチームが正々堂々と戦い勝つても負けても、相手を思いやる大きな心と強い精神力を身に着ける非常によい大会となりました。

今年度は途中、フレンドリーマッチとして理事長対子どもたちという戦いが繰り広げられました。ユニフォームを真っ黒にして今岡理事長は戦いましたが結果は2対2の引き分けとなりました。

優勝されたコスモ東広島FCのみならず、岡山県の政田サッカー場で行われます中国地区大会突破を祈念いたします。

(記事：村橋聡)

2年目、新宅委員長の地域教育推進委員会です。大きなテーマは「ボトムアップ」上司からの指令で動くのではなく

「ボトムアップ」上司からの指令で動くのではなく、

2年目、新宅委員長の地域教育推進委員会です。大きなテーマは「ボトムアップ」上司からの指令で動くのではなく、



横山 大二郎

# 卒業生 スピーチ

皆さんこんにちは。今年の卒業生 スピーチのトップバッターということで、今日は、僕が青年会議所に入会して得た学びや、経験をお話しさせていただきます。

今から6年前の、2016年に

皆さんこんにちは。今年の卒業生 スピーチのトップバッターということで、今日は、僕が青年会議所に入会して得た学びや、経験をお話しさせていただきます。

今から6年前の、2016年に

く下からドンドンアイデアをみんなが出して吸い上げて事業を作り上げるための組織作りを目指して1年間実践しました。この年で学んだことは、青年会議所は社会の課題や変革があるような年にはどの団体より、真つ先にそれに取り組むべきだということです。今年これを青年会議所がやらずにどうするんだというような事業に是非取り組んでいただければと思います。

3年目は池田知和委員長の活気溢れる組織づくり委員会です。尾道開港850年記念事業ということで米フェスタをやりました。この委員会は本当にみんなよく飲みに行きましたね。この年は幹事不在の年で幹事をもう一度させていただく年になり、太田先輩という最高の卒業予定者をお預かりしていただいたので、卒業旅行でリムジンに乗り、卒業例会でまたすんこりリムジンを呼びました。委員会費がなぜか20万位貯まりましたよ。

この年に学んだことは委員長が真摯に委員会メンバーと向き合つて本気でやるとみんながこまめていて来るということです。これは自分の会社でも同じなんだらうと大変勉強になりました。

4年目は山本圭介委員長の総務広報委員会です。この辺から新型コロナの影響で中々出席が難しく委員長には迷惑をおかけした1年だったのですが、ドラクエウォークをほとんどの委員会メンバーがされていて穏やかで優しいちよつと陰キャなメンバーばかりでした。この年に学んだことは、総務広報委員会は見地味な仕事です。と、青年会議所のイメージを伝えるすごく重要な委員会だと思えます。なので、総務の委員長にならない方はどんな新しいツールを使って、青年会議所という団体をブランディングして広報活動を是非行つてほしいと思います。

5年目内海委員長の未来ビジョン委員会です。この年のメンバーがほぼヤカラみたいなメンバーで、随分とおもちゃにされて、おいしくして頂いた1年だったように思います。豪雨の際に内海委員長が因島のパイイヤが水没した時はずね、委員会メンバーみんな土砂を掻き出しに行ったりしました。しっかり手を洗って仕事に戻った事を、この場を借りて神に誓いたいと思います。風評被害が凄いのです。

この年の事業の内容は、改めて内海さんからスピーチがあると思いますので、ここでは、かさぶたに触れるのは控えようと思います。

そして卒業年、沼尾委員長率いる拡大委員会です。去年と打って変わって私に対して優しいメンバーが多くて、初めて同じ委員会になる方も沢山いて、とても新鮮でした。沼尾委員長は新しい拡大活動

のグループ作りだったり、前例のない取り組みをニヤニヤしながら嬉しそうに顔でいつも説明してくるんですよ。そんな沼尾委員長を見ながら、最近では本当にこの委員会で卒業できてよかったなとつくづく感じています。今年の委員会ですんだ事は残りの5か月の間にゆつくり探して行きたいと思えます。

以上は青年会議所活動を経験して、青年会議所はどんな団体だったのだろうかと自分なりに振り返りました。

皆さん砥石ってご存じですか？包丁を研ぐ石の種類があります。砥石は動かないように固定して包丁を上下に動かすことで包丁自身が鋭く磨かれていきます。青年会議所というのはまさに砥石です。いつも動かさずそこにあつて私たちの磨くための環境を与え続けてくれます。そして、私たちは包丁です。使わず置いておくと必ず自然と錆びます。私たちは自分で自分を磨くことは出来ませんが、砥石を変えながら動き続けることで磨かれていくのだと思います。どの砥石を選び、どのように己を磨いていくかを皆さん自身がこの青年会議所活動の中で決めてもらえればと思います。

そしてこれから青年会議所を担う皆さんには、この国はこうあるべきだという自分なりの国家観をしっかりと持ち、だからこういう事業が必要だと熱く語り合うような、そんな成年経済人になつていただいて、尾道を更に盛り上げていっていただきたいと思えます。

最後になりますが、正直中々出席できず申し訳なくて辞めようかと思つた時期もありました。だけど自分が辞めずにここまでこれたのは、来れるか来れないかギリギリまで分からない私の様なボンコツメンバーに対して遅れて参加したり、久しぶりに例会に参加した時に「ようきてくれたね」といふ優しい声をかけてくれた皆さんの言葉に救つて頂いたおかげだと思つています。感謝しかありません。本当に今までありがとうございました。



島田昌広

本日は、合同委員会の貴重なお時間をいただきました。ありがとうございます。

島田昌広です。8年というJ.C生活を振り返つて、この会場をどれほど凍りつかせても、僕の骨は締めめの悠哉君が拾つてくれると思いますので、しっかりといい思い出を振り返つて、少し皆様にお伝えできることがあればと思います。

入会のきっかけは加度さんに家を建てて頂いて、

丁度どこからかJ.Cという存在は知つていて、興味がありました。割と前向きに入ろうという気持ちにはあつたんですけど、入る理由としては、友人関係、人間関係を少し広げたいという気持ちがあつたので、尾道に貢献したいとか、街づくりというところに、その頃はあまり思いが強くなくて、そういった少し軽い気持ちで入会したのをよく覚えています。そういったこともあり、最初の1年目、2年目は、委員会にはできるだけ顔を出すんですが、積極的に意見を言つたり、事業に参加したりすることができず、多分その頃の委員長の皆様には「扱づらいやつだな」という風に思われていたと思うので、ご迷惑をおかけしたと思つています。

では、1年目から少し振り返つていこうと思えます。1年目の未来ビジョン委員会。委員長は中谷純也さんと、男気のある方というか、委員会を力をつけて張っていく力強さがある委員長で、委員会に出て事業の構築を進めていくんですけど、やっぱりわかりませんよね。言っていることも、どういふことがやりたいのかつていうのも、まだ全然イメージが出来ない中で、一生懸命委員会に出ていっていき、頼まれた仕事をやっていくということを、1年目はやってきたと思えます。

次に2年目、政成委員長だったんですけど、もうホントに1年間酒ばかり飲んでたイメージがあります。委員会が終わると、「今日アプター行きますか？」つて政成さんが聞くのですが、一番に副委員長の中司さんが、「行きません」と、風のようにスワツと帰つて行つていました。普通全員に向かつて「今日行ける人？」みたいな聞くんですけど、「二人一人順番に聞きます。副委員長は帰つちやうし皆さん「行かない」と答えていき、毎回僕が最後に聞かれていました。寂しそうな感じで、「島田くんは？」と聞かれ、2年目ですので断りづらくて、毎回政成さんと二人で深夜2時まで飲むみたいな、そういう1年を過ごした気がします。ですので、事業に関しては、ちよつと覚えてないんですけども、本当にたくさんお酒を飲んだなつた1年だったと思えます。特に印象があるのが、卒業旅行から広島で飲むということ、夕方5時ぐらいから車で広島に行くんですけど、すぐに車で飲み始めて、6次会くらいまでありました。朝の4時ぐらいまで飲んで、ホテルはもう荷物置きたいな感じでした。最後の6次会では、女性がたくさんいるお店で着いた瞬間に政成さんが寝始めましたが、他の委員メンバーはまだ元気気で、好き放題するわけですよ。フルーツを頼んだり、残つている女性全員呼んだりとかで、そして請求の際、請求書を見たら30万くらいでした。「やべえー」と思つたのですが、まあいいや払つてくれるだろうと思つて、政成さ

んを起こして「支払いお願いします」と言つたら、請求書を見て、「ぼつたくりだ！」とつて、エレベーターで暴れていました。僕としては、まあ、フルーツもいっぱい食べたし、一人一人、女性もついてもらつたし、正規の料金かと思つていたのですが、「ちよつとやられちゃいましたね」と政成さんには言いました。お店にも迷惑かけましたし、まだ場所も覚えていませんので、ぜひ今度一緒にまた行ければと思つています。

次に3年目。新宅委員長の地域教育推進委員会。この頃から少し、自分のJ.Cに対する取り組み方、向き合い方が変わつてきたように思えます。新宅さんが飲み場に連れていってくれて、理事の役割とか、理事をやる意義みたいなものを1年間通して教えてくれたと思います。僕はその頃はまだ断り続けるんですけど、結果的に新宅さんが二年を通じて教えてくれたことが、ずっと残つていて、理事を受ける気はなかつたんですけど、理事会の議事録にちよつと目を通したり、どういふことを話し合つたりしているのだから、か、そういうことも考え始め、少し自分の中で変化が現れてきたと思えます。

続いて、加藤雄大さんが委員長の後継者を担う宝育成委員会です。雄大さんは僕と同期で、初めて同期の方が委員長をやるといふことで、それまでの委員長と違つてかなりこき使われました。もうやたらとこき使つてくるので、うちの家族ではブラックリストが何人かいるのですが、雄大さんが一番最初に、僕の家ブラックリストに入りました。今はそうでもないですけど、当時は子供がよく怒つていました。でも雄大さんがたくさん役割を分けてくれたことで、さつきも言つたように、J.Cに対する取り組み方が変わつてきて、同期の方々、すごく優秀な人が多く、刺激をたくさんもらつたと思えます。とても充実した1年だったと思えます。雄大さん、ありがとうございます。

続いて、山本圭介さんが委員長の総務広報委員会。この年は僕が個人的に良いことがいっぱいあつて、浮かれていたところ、東京の池袋駅の階段から転げ落ちて両肘を骨折しました。両肘を骨折してそのまま日本の病院に運ばれて、「両肘を骨折しています。すぐに手術した方が良いでしょう」と言われた時はショックで、日本の病院は順番待ちがいっぱいだったので、「すぐ尾道に頑張つて帰れ」と言われて、市民病院で手術を受けるというようなことがありました。本当にショックだったんですけども、委員会メンバーの方がお見舞いに来てくれて、一番最初に来てくれたのは卒業生の鍋島さんでした。手術の後ですから、手がクリームパンみたいにパンパン

に腫れていました。もういつ「パンツ」って破裂するのではないかとというぐらいパンで痛かったのを覚えています。その手を鍋島さんに見せて、「ホントに痛いし、しんどいし、もう大変だわ」と言うと、「大変だね」と言っていて、大変だ後に、鍋島さんが「JCライフに空気をペースがあるから、闘病記書いてくれ」とお願いされました。今まさに僕のしんどさを伝えたいところですけど、その怪我をした経緯とか、これからのリハビリとか、回復までの記事を3か月ぐらいい分けて書いてほしいという依頼がバックリしてきました。その後、副委員長の岡田健吾さんが来て、健吾さんに「鍋島さんのからこういふこと言われたんですけど、怪我人を捕まえてどういふことですかね？」って尋ねたら、「それ委員会で満場一致で決まったので、もう決定です」と言われて、もうこの人達という神経しているのだらうと思いました。でも、今思うと、僕がしばらくJCに参加できませんので、復帰した時に入っていくやすいように、役割を常に与えてくればよいな気もきました。ただ、その依頼の張本人の山本圭介さんだけが、見舞いにこない。それだけは今日直接言おうと思っていました。

続いて、地域教育実践委員会が委員長を受けさせて頂いたんですけど、卒業予定者スピーチでよく「委員長をやった方がいいよ」とか、「委員長をやるべきだよ」といふことを皆さん言われるんですが、実際やってみて、やっぱり得るものがあるのは、多分、個々に違うと思うので、こういうことが得られるので、やっただ方がいいよというよりは、僕からはあんまり言えませんが、僕がやって良かったと思っただけのことをお伝えできればと思います。僕自身は力がなかったと思います。ですが、吉田副理事長、岡本副委員長、同室の山本恭平さんは、経験も知識も行動力も僕とは全然違っていて、そういう方がある人たちが一緒に、同じ理事という立場でそばにいて頂くと、より深く、その人たちの力の奥深さみたいなものが見えた1年だったと思います。フロアメンバーとして委員会に所属するのも楽しいです。得るものはもちろんありますが、やっぱり理事会に出て、理事の人たちの苦しみをであったり、苦労だったり、そういうのを間近で見ることで得るものというのはいくらもありません。僕自身は、フロアメンバーにも、副理事長にも副委員長にも迷惑しかかけていませんので、本当に周りの人達に助けていただいた1年だったと思っています。本当にあ

りがとうございました。委員長としての1年間は、ちゃんとお礼を言うこと、また失敗をたくさんする中で、失敗した時には、心から嘘をつかず、正面から謝るという事し、心からできませうでした。でもそれをすると、この尾道青年会議所の皆さんは、ものすごく温かくて、ちゃんと正直に腹を割って謝れば、受け入れてくださる方ばかりだったので、そういう意味では本当に謝ること、お礼を言うこと、この2つを大事にした1年だったと思っています。皆さんが思っている以上に、昔よりも委員会運営がやりやすい時代だと思います。お子さんがいらっしゃれば、お子さんが寝ついてから9時から10時までズームで委員会をやるとか、そういうこともできると思います。ちゃんと委員長の大変さは周りが理解してくださると思います。そういった今の時代に合う委員会運営というものがあろうと思うので、理事のお声がかかったり、当選された際には、是非前向きに考えていただければと思います。

最後に、本年度沼尾委員長の会員拡大委員会というところで、もう本当にドキドキワクワク、まあワクワクはしないんですけど、ドキドキワクワクという感じで、すごいサプライズが多い1年を送らせていただいています。「わざとかなってというぐらいサプライズが多いんです。僕を飽きさせないよう色々と変え、品を愛用していただくように、いろいろののだと思うんですけど、副理事長やフロアメンバーを巻き込まないように、僕がオロオロするところを見たいのであれば、僕だけにサプライズを用意していただいて、副理事長やフロアメンバーにはしっかりと伝えておいてもいいからという風に思っています。

足早にここまでお話させて頂きました。が、ここにいらしてやる方、たくさんの方に役割を与えていただい、少しずつ、JCに楽しみや、充実感を与えて頂いたと思います。特に僕は書道をやっているんですけども、看板を頼んで頂いたりすることは、すごく嬉しいんです。普段書道はあんまり日の目を浴びませんので、そういった依頼は、本当に喜んでお受けします。卒業してからも是非お声をかけて頂ければ、沼尾君以外は無料でさせていただきますので、気軽に声がけ頂ければと思います。

足早で申し訳ないんですけども、私の8年間で感じたことを、簡単にまとめさせていただきます。

以上で、私の卒業生スピーチとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



中本 悠哉

改めまして、こんばんは。会員拡大委員会の中本です。

卒業生スピーチというところで、何を話そうか考えたのですが、JC活動にあまり参加できていなかったので、エピソードはとも少ないのが現実です。同期の中で、理事経験が無いのは、私だけとなつてしまいました。

まずもって、参加できなかった年の各委員長、卒業された方もいらっしゃいますが、お詫び致します。

JCに入って、良かったことがあります。それは、諸先輩方をはじめ、多くの方に出会えたことです。JCで出会わなければ、お話しすることも出来ないうような方にもお会いし、お話しすることができました。JC会員であるという理由で、色々とかわいづつてくださる先輩もいらっしゃり、JCに入っていて良かったなあと感じています。

また、中島くんや小西くんに出会ったことで、保育園の増築や新築など仕事でもお世話になることになりました。もしJCに入会してなければ出会ったこととはなかったかも知れません。JCは多くの人と出会った場でもあり、もっと積極的に活動していれば、より多くの方に会えたであろうと後悔もしております。

JC活動で一番に思い浮かぶのは、幹事として参加させていただいた大西委員会でのゴルフ松本を招いた講演会です。普段の生活において、芸能人とお会いする機会など皆無で、素直に「JCつづけて」と感じました。また、いのちの授業では、多くの方から「来て良かったです」「こういう講演を増やしてほしいです」など声をいただき、成功したことに喜びを覚えました。

夏期講習では、卒園児にも出会うことができました。保護者から「楽しかったと言っていました」「感謝の言葉をいただきました。私は幹事という立場で、何もできなかったのですが、参加して良かったです。

次に思い浮かぶのが、高山委員会と山本委員会の花火です。たまたまですが、2年連続で花火を上げる委員会に参加させていただき、きました。珍しいことではないかと思

コロナ禍で疲弊している地域の方に笑顔を届けたいということで打ち上げられた花火には、多くの方から賞賛をいただきました。翌週の職場では、子ども達や職員から「尾道でも花火がったねー」など、花火の話でもちきりでした。私は、あまり戦力にならなかったかもしれないが、メンバーとして、誇らしく感じています。

数々の事業やイベントを企画・開催されていると思いますが、これほど大きなことが出来る青年経済団体はJCだけだと思っても、また、地域を元気にする行役を行っているのも、JCの魅力だと思います。

次に、例会や合同委員会での形式は、自社で行うことの無いもので、学ぶことが多いです。最近では、人前で話す機会も増えましたが、こうした改まった場所はあまりないので、良い経験をさせていただきました。

次に「考え方」です。現在の委員会でもよく議論されていましたが、「目的意識」についてです。様々な事業を企画していくなかで、手法の話になっているとき、理事経験者の方から「本来の目的は？」なんてそれ選ぶの？」など、本質について問うている姿を見られました。多くの意見が出るので、あれもこれもと取り入れたり、事業開催が近づき、切羽詰まってくる、どうしても手法の話になってしまっています。そんな時、本来の目的を見失ってしまっているのではないかと思います。そういう際には、理事経験者の方がサポートしてくださることで、軌道修正が出来たり、はっと気づかせていただくことがあります。

自社においても、同様のことが起きているなあと感じました。幹部と様々な議論をしていくと、どうしても目的を忘れ、手法の話になつてしまふことがあります。そういう際には、本来の目的を思い返すように促しています。何が言いたかったかという、と、礼儀や組織、物事の本質を学ぶことが出来るのもJCであるということだと思います。

ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨かれないように、人は人でしか磨かれません。あまり参加出来ない私が言うのもどうかと思いますが、せつなくJCに入ったのであれば、しっかりと人と関わって、自分を磨くのが良いのではないかと思います。

あまり参加出来ない私に対して、参加できる際にはいつも温かく迎え入れてくださった委員長と委員の皆様へ感謝申し上げます。

せみの鳴き声が耳をつんざく、とても暑い夏がやってまいりました。暑さに負けず、大切な人やまちのためにがんばっているOB諸先輩方、現役メンバーの皆さんがいらっしゃるからこそ、今の尾道があります。こうして尾道JC創立65周年。65回目の夏を越えて、今もなお尾道JCは熱く活動を続けてまいります。うけ継がれる歴史を礎に、今、我々現役メンバーができることは何か、背景なき事業ではなく、目的なき事業ではなく、今の尾道のためにできることは何か…。なぜ、何を、いつ、どこで、誰と、どうやって、これらの追及を絶やすことなく、メンバー全員心一つにして、びがくを貫ける団体であり続けるよう、邁進してまいります。

(記事: 岡田 貴臣)

